

専門科目 疫学・生物統計学分野

(博士後期課程)

科目名	リスク科学特論	code number : EPI 351	選択	1 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	津田 洋子 講師						
配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	月曜 1,2時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

人々の健康問題の解決をめざす公衆衛生活動は、見方を変えれば健康リスクの把握と対処と考えられる。健康リスクの把握には疫学の体系が必須であるが、特に対処についてはリスク科学から学べる場所が大きい。リスク科学の基本となる米科学アカデミーの体系的なリスクアセスメント・リスクマネジメントの考え方を出発点とし、教員から提示されるいくつかの例を参考にしつつ、学生が各自の課題の問題解決にリスク科学の考え方や方法を適用できるようにする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. リスク概念の基本であるリスクアセスメントとリスクマネジメントの関係を理解する。
2. リスクの把握にあたって、情報の不確かさとその対処法を理解し、リスクを質的だけでなく量的視点で把握し、代替策のリスクも考慮することの重要性を理解する。
3. 専門家としてリスク対処を進めていくうえで核となるリスクコミュニケーションを自分の課題研究のテーマにあてはめることができる。

【行動目標(SBO)】

1. リスクアセスメントとリスクマネジメントの違いとその相互関係を説明できる。
2. リスクの把握にあたって、情報の不確かさとその対処法を説明できる。
3. 質的だけでなく量的視点を持ち、代替策のリスクも評価することができる。
4. リスクコミュニケーションの基本概念と手法を理解し、自分の課題研究のテーマにあてはめ説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- 1) 授業への積極的な参加(30%)
- 2) 講義中に求められる各自の課題についてリスク科学を踏まえた報告で評価する(70%)

4. 教科書・テキスト

- ・FDA Communicating Risks and Benefits: An Evidence-Based User's Guide Food and Drug Administration (日本語訳有)
<http://www.fda.gov/downloads/AboutFDA/ReportsManualsForms/Reports/UCM268069.pdf>
- ・Making Health Communication Programs Work, National Cancer Institute (NCI) (日本語訳有)
<https://www.cancer.gov/publications/health-communication/pink-book.pdf>

5. 参考書

- ・Risk Assessment in the Federal Government. the National Research Council
<https://www.nap.edu/catalog/366/risk-assessment-in-the-federal-government-managing-the-process> (Free download 可能)

6. 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・基礎疫学の単位を修得していること。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

リスク科学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/13(金)	1	矢野 榮二 教授(客)	リスク科学と意思決定
2	11/13(金)	2	矢野 榮二 教授(客)	リスクアセスメントとリスクマネジメント:許容濃度を例として
3	11/20(金)	1	矢野 榮二 教授(客)	低線量放射線の健康影響:問題提起
4	11/20(金)	2	矢野 榮二 教授(客)	Precautionary Principleと代替策のリスク
5	12/7(月)	1	福田 吉治 教授 八幡裕一郎 講師(非)	感染症・食中毒のリスク管理
6	12/7(月)	2	福田 吉治 教授 八幡裕一郎 講師(非)	感染症・食中毒のリスク管理
7	12/18(金)	1	津田 洋子 講師	環境リスク(水・大気)と労働災害のリスク
8	12/18(金)	2	津田 洋子 講師	情報伝達のリスクとリスクコミュニケーション